

平成30年度の管理運営状況（武蔵野の森総合スポーツプラザ）

指定管理者：東京スタジアムグループ

大項目	中項目	確認項目	特にアピールしたい点(具体的に)、改善点等									
管理状況	適正な管理の履行	施設の提供について	平成30年度は他の都立施設の代替施設として、春高バレーなどの定例大会を受け入れたほか、近代五種全日本選手権などの全国レベルの大会を誘致した。大型イベントであるパラフェスや全国育樹祭の調整を行い、特に育樹祭については、安全・安心な運営が確保されるよう、特別な警備体制の構築に全面的に協力した。総合スポーツ施設としての公益性を担保しつつ、空いた枠を活用してコンサート等の商業イベントを年26回誘致し、地域の賑わいに貢献するとともに、収益を確保した。また、2019年ラグビーワールドカップのホスピタリティ会場及び東京2020大会会場となることから、都や組織委員会等からの視察・調査に全面的に協力するとともに、施設側の運営ノウハウを提供し、大会の円滑な運営に向けて支援を行った。									
	法令等の遵守	環境配慮への取組	当施設は様々な環境配慮・省エネルギー手法が採用されているため、これらの工夫を最大限生かせるよう運用に努めている。節水に関しては、雨水利用で年間約2800m ³ の上水を節減するほか、プールの水抜きで発生する排水を貯留し、3000m ³ を中水として利用している。また、電気・ガスについては、コージェネ・ボイラー・地中熱・吸収式冷凍機等で省エネに有利な設備から順に使用するようし、常に環境に配慮した設備運営を行っている。									
	安全性の確保	防災への配慮・緊急時対策	5月及び11月に、全部門より職員が参加し、隣接スタジアムと合同で防災訓練を実施、発災時に円滑な連携や一体的なエリアとしての避難誘導ができるよう、実地で演習した。平成31年度から大規模災害時の一時滞在施設として指定されることとなったため、防災物品の受け入れ等、指定に向けた準備を行った。また、急病人発生時などに全職員が対応できるよう、隣接スタジアムと合同で上級救命技能講習を受講し、職員全員が資格を取得している。									
事業効果	利用の状況	利用状況	30年度は、施設全体で109万人のお客様にご来場いただいた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>メインアリーナ利用率</td> <td>50.6%</td> <td>77.2%</td> </tr> <tr> <td>サブアリーナ利用率</td> <td>50.0%</td> <td>81.5%</td> </tr> </tbody> </table> 利用率は、平成29年度から着実に向上した。サブアリーナは、高校ハンドボール部や市民団体の卓球大会等、一般団体の継続的な利用が定着した。 ジム・プール（個人）：利用者 166,454人 うち月額フリーパスによる利用者が28,396人 フリーパス会員が堅調に増加し、利用者増に貢献した。1日当たりの利用者は、29年度3月に395人であったところ、30年度は平均で479人に増加した。		H29年度	H30年度	メインアリーナ利用率	50.6%	77.2%	サブアリーナ利用率	50.0%	81.5%
		H29年度	H30年度									
	メインアリーナ利用率	50.6%	77.2%									
	サブアリーナ利用率	50.0%	81.5%									
	スポーツ振興事業等の実施状況	スポーツ振興事業等の実施状況	○スポーツ振興事業：18事業を実施し、延べ2134人に参加いただいた。スポーツ実施率の低い働き盛り世代や子育て世代が参加しやすいよう、平日夜間や土日に事業を実施した。また、幅広い世代を対象に、オリンピック卓球イベントや、パラリンピアン交流事業、元世界チャンピオンが講師の空手教室など、スポーツに親しむ機会を提供した。これらの取組の結果、参加者アンケートではおおむねどの事業も満足度が高かった。 ○地域貢献事業：18事業を実施し、感謝デーの来場者を含め、4万4千人に参加いただいた。感謝デーイベントでは、隣接スタジアムと一体的に開催し、車いすバスケット等の競技体験や食育教室を行い、スタジアム単体の時の参加者2万5千人を大きく超える3万8千人が来場し、地域の活性化と健康増進に貢献した。									
自主事業の実施状況	自主事業の実施状況	プール・ジムを併設する施設の特性を生かしたプログラムを展開し、延べ5万2千人に参加いただいた。特に、子供向けの水泳プログラムが人気で、5歳～小学生対象のクラスは参加率が90%を超えている。半年ごとのレッスンスケジュールの計画の際に、利用者からの声を反映し、より多くの人に参加できるよう、プログラムの曜日や時間帯等の見直しを行っている。										
サービスの取組	サービスの取組	○駐車場利用者への対応：イベント開催とジム・プール等の駐車場利用者へのサービスを両立させるため、一般利用者の駐車場利用に配慮して、主催者との調整を行っている。 ○利用者の声を踏まえ、以下を整備 ・来館者のための休憩スペースの整備（テーブルとイス設置） ・プールエリアへの物置ラック、ベンチの購入 ・サブアリーナの可動畳収納場所への防球ネット設置（奥へ球が入ってしまうとの苦情対応） ・サブアリーナへの製氷機、冷水器の設置（熱中症対策のため） ○年末年始休館日（12/28,29,1/3）や、例月の休館日（6,7,10,11,12月）も、主催者の意向を踏まえて、施設設備の点検に支障がないよう調整したうえ貸し出しを行い、高校バスケットウィンターカップや春高バレー、アイスショーやコンサートの準備等が行われた。										
利用者のニーズの把握	利用者のニーズの把握	利用者満足度調査を行い、ジム・プール・サブアリーナの利用者アンケートでは、施設の清潔さやスタッフの対応が評価され、満足の評価は90%を超えた。また、競技団体や、コンサートなどのイベント主催団体との意見交換会においては、アリーナ面や観客席の広さなどハード面のほか、スタッフの対応や京王線の臨時停車調整などが評価され、総じて満足との評価を得ている。										
利用促進への取組	利用促進への取組	隣接のスタジアムとともに3か月ごとのイベントパンフレットを作成し、配布するほか、スポーツ振興事業等についても必要に応じてチラシを作成し、参加者の募集に努めている。ICTを活用した発信については、HPとFacebookに加えて、開業1周年を機にtwitterを開始した。各媒体を活用して施設利用の基本事項やスポーツ振興事業等の募集、駐車場の状況等の情報を発信している。										

〔作成上の注意事項〕

- ・挙げていただく項目数に制限はありませんが、A4で1枚に収まるようご作成ください。
- ・ご提出いただいたプレゼンテーション資料は、評価委員会の会議資料として、後日、オリンピック・パラリンピック準備局のHPに掲載します。